

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-141560

⑬ Int.Cl.⁴B 41 J 3/04
B 65 D 81/26

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

8302-2C
C-2119-3E

⑭ 公開 昭和61年(1986)6月28日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 インクカートリッジ包装体

⑯ 特 願 昭59-265039

⑰ 出 願 昭59(1984)12月14日

⑱ 発 明 者	松 本 修 三	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	株式会社リコー内
⑱ 発 明 者	伊 佐 山 拓 郎	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	株式会社リコー内
⑱ 発 明 者	飴 山 実	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	株式会社リコー内
⑱ 発 明 者	山 崎 博 史	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	株式会社リコー内
⑱ 発 明 者	片 野 泰 男	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	株式会社リコー内
⑱ 発 明 者	岩 崎 久 八 郎	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	株式会社リコー内
⑲ 出 願 人	株 式 会 社 リ コ ー	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	
⑳ 代 理 人	弁 理 士 高 野 明 近		

明 細 書

1. 発明の名称

インクカートリッジ包装体

2. 特許請求の範囲

(1)、インクカートリッジを収納した包装容器を有し、該容器中に、インクに対する溶解度が空気よりも小さい気体が充填されていることを特徴とするインクカートリッジ包装体。

(2)、前記気体がヘリウムガスであることを特徴とする特許請求の範囲第(1)項に記載のインクカートリッジ包装体。

3. 発明の詳細な説明

技術分野

本発明は、インクジェット記録装置におけるインクカートリッジ又はヘッドカートリッジの包装に関するものである。

従来技術

一般に、インクを使用する機器にインクを供給する方式としては、交換可能なカートリッジによってインクを供給するカートリッジ方式と、タン

クに容器から直接インクを補充したり、またはスボイトなどで注入するタンク方式とがある。

しかしながら、インクジェット記録装置においては極めて細いノズルからインク粒子を噴射させ、このインク粒子を静電界等により制御して記録媒体上に文字等を記録しなければならない。したがって、インクへの異物の混入、大気との接触によるインク自体の化学変化の防止という観点からカートリッジ方式が非常に有利である。

第3図は、斯かる構成のヘッドカートリッジを示し、1はヘッド本体、2はインク袋で、これらがヘッドカートリッジ筐体3に一体的に収納される。このヘッドカートリッジは、製造時からユーザが使用するまでの包装時の保存中に、ヘッド本体1、インク袋2中のインクに、通常、包装容器内の空気が溶解する。そして溶存量が多くなると、ヘッド本体内で気泡が発生したり、或いはインク袋内で発生した気泡が、使用中にヘッド内へ移動してインク噴射に影響を及ぼす。そのうえ、包装保存時は、外気温も激しく変化し、条件は室温

での稼動時に比して非常に厳しい。ところで、カートリッジ筐体には、通常、インクの消費に伴ってインク袋を収縮可能とするための数個の空気孔が設けられている。したがって、インク袋内への空気の溶解を防ぐためには、袋を透気性のないものにする必要がある。また、ノズル部からの空気の溶解も防がなければならない。そこで、従来、インクカートリッジを2重包装し、そのうちの一方はより気密性の高い包装材にして空気の溶解を防止したものがある（実開昭51-156727号公報）が、包装材が限定され、また加工工程も増えてしまう欠点がある。また、ヘッド本体を樹脂成形などで加工して空気の溶解を防止しようとしても、薄肉部ではインクへの空気の溶解があり、透気性のない材質を選ぶ必要があると共に加工工程が増加することとなってしまう。

目 的

本発明は、斯かる事情に鑑みてなされたもので、簡単な構成で、保存中のインクへの空気溶解を防止し、包装容器内での長期保存を可能にすること

00 μ mのPET(ポリエステル)/PE/Al-Foil(7 μ m以上の厚み)/PEのような多層ラミネートフィルムで構成すると良い。

第2図は、インクカートリッジの包装に本発明を適用した実施例を示す図で、同図(A)はインクカートリッジを、同図(B)は包装過程をそれぞれ示している。同図において、インクカートリッジ20は、インク袋21、カートリッジ筐体22から成っており、23はインク導出部、24は通気孔である。そして、かかるインクカートリッジを、第1図の場合と同様、カートリッジ包装容器25で包装する際、ヘリウムガスを満たしてインクへの気体溶解を抑止している。

効 果

以上のように、本発明によれば、簡単な構成で、低コストで保存中のインクへの気体溶解を防止することができ、包装容器内での長期保存が可能になると共に、包装容器内での外部条件に影響を受けにくく、保存時の信頼性を向上させることができる。

を目的としてなされたものである。

構 成

本発明は、上記目的を達成するために、インクカートリッジを収納した包装容器を有し、該容器中に、インクに対する溶解度が空気よりも小さい気体が充填されていることを特徴としたものである。以下、本発明の実施例に基づいて説明する。

第1図は、本発明による一実施例を示す図で、同図(A)は包装過程を示す図であり、同図(B)は密閉状態を示す図である。図において、10はヘッドカートリッジで、該カートリッジ10内には、前述のように、ヘッド本体、インク袋が組み込まれている。11はカートリッジ包装容器で、該包装容器11には、ヘッドカートリッジ10を包装する際、インクへの溶解性の少ない気体、例えばヘリウムガス等を満たす。同図(B)は密閉状態の包装体12を示しており、このような構成にすることにより、インクへの気体の溶解を抑止する。また、カートリッジ包装容器は、低透気、低透過性を有するもの、例えば、厚み100～2

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明によるヘッドカートリッジの包装の一実施例を示す図、第2図は、本発明によるインクカートリッジの包装の他の実施例を示す図、第3図は、ヘッドカートリッジの分解図である。

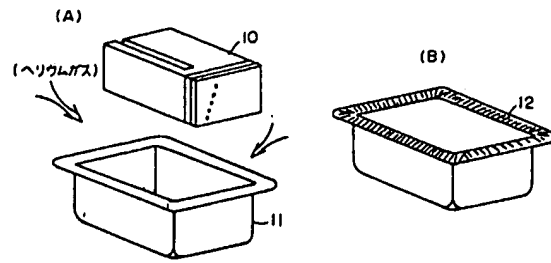
1…ヘッド本体、2…インク袋、3…カートリッジ筐体、10…ヘッドカートリッジ、11…カートリッジ包装容器、12…密閉状態のカートリッジ包装容器、20…インクカートリッジ、21…インク袋、22…カートリッジ筐体、23…インク導出部、24…通気孔、25…カートリッジ包装容器。

特許出願人 株式会社 リコー

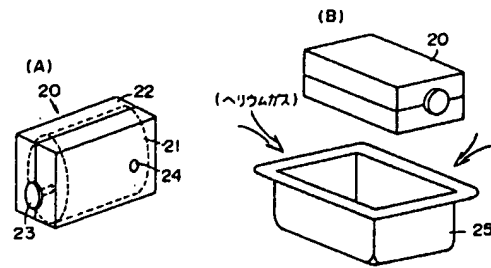
代 理 人 高 野 明 近



第 1 図



第 2 図



第 3 図

